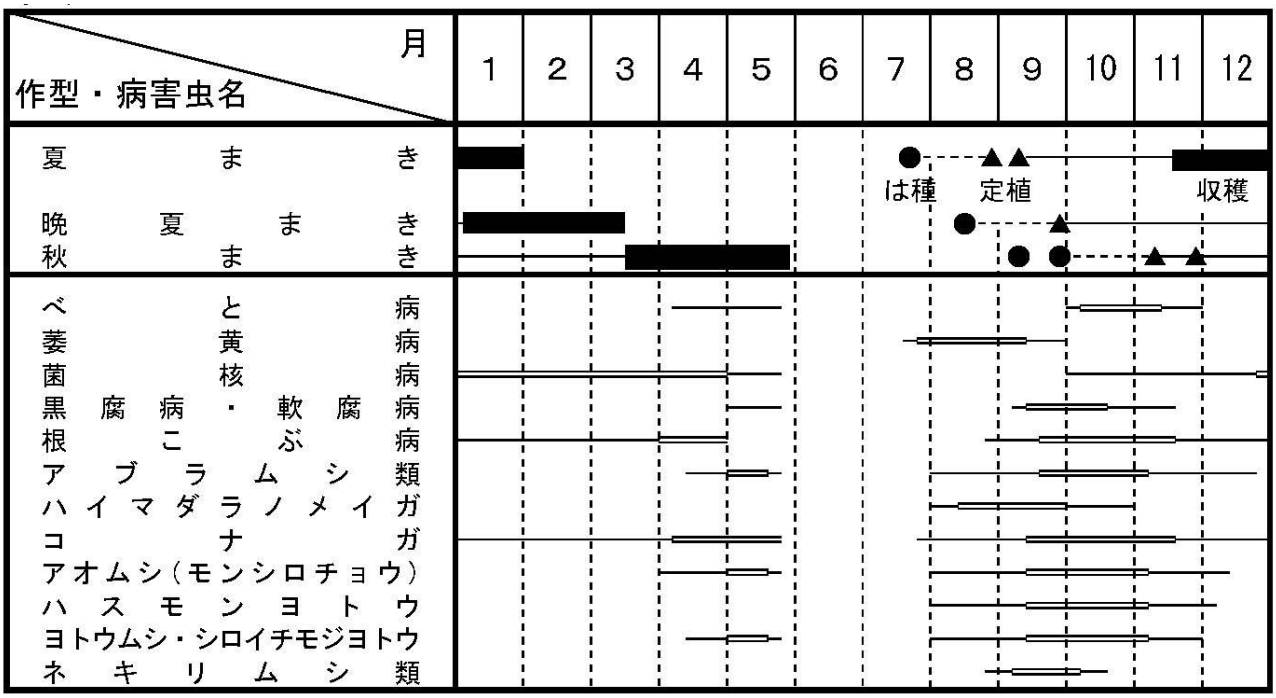
キャベツ



べと病

留意事項

1 低温・多雨での発生が多い。

2 QoI剤（１１）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

2 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、リドミルゴールドMZに含まれる成分マンゼブの総使用回数は、3回以内なので注意する。

防除方法

1 排水を良好にし、密植を避ける。

2 窒素質肥料の多用を避ける。

3 被害葉は速やかに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。

・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤 Ｍ３【400～600倍　30日／3回】

・ランマンフロアブル ２１【2,000倍　3日／4回】

・ピシロックフロアブル Ｕ１７【1,000倍　前日／3回】

5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・プロポーズ顆粒水和剤 Ｍ５ ４０【1,000倍　14日／2回】

・リドミルゴールドMZ Ｍ３ ４【1,000倍　30日／3回】

・メジャーフロアブル １１【2,000倍　3日／3回】

・オロンディスウルトラSC ４０ ４９【2,000倍　7日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

萎黄病

留意事項

1 夏まきキャベツに発生が多い。
2 土壌温度27～30℃の時、発生が多い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 発病株を速やかに処分する。
3 耐病性品種（YR）を用いる。
4 苗床、本ぽを土壌消毒する。（ⅩⅢ土壌消毒　参照）

菌核病

留意事項

1 菌核が土中に残って伝染源となるので、罹病株は放置せずほ場外へ持ち出す。
2 QoI剤（１１）、SDHI剤（7）は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 連作を避け、田畑輪換を図る。
2 なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。
3 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 1【2,000倍　7日／6回】
・ロブラール水和剤 2【1,000倍　7日／4回】
・セイビアーフロアブル20 １２【1,000倍　3日／3回】
・オンリーワンフロアブル 3【1,000～2,000倍　前日／3回】
・ファンタジスタ顆粒水和剤 １１【2,000～3,000倍　3日／3回】
・アフェットフロアブル 7【2,000倍　前日／3回】
・パレード20フロアブル 7【2,000～4,000倍　前日／3回】

黒腐病

留意事項

1 種子・土壌伝染する。
2 9～10月の多雨で低温時に発生が多い。
3 キノンドーフロアブルは、水産動植物に強い影響を与える恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
4 薬剤散布は、特に台風や大雨、強風の直後に行うと効果が高い。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 無病種子を用いる。
2 あぶらな科野菜の連作を避ける。
3 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。
4 激発地では、定植時に下記の薬剤を施用する。
・オリゼメート粒剤 Ｐ２
【6～9kg／10a　全面土壌混和または作条土壌混和　定植時／1回】
5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
・キノンドーフロアブル Ｍ１【800～1,000倍　14日／3回】
6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・バリダシン液剤5 Ｕ１８【800倍　7日／5回】
・アグリマイシン-100 ４１ ２５【2,000倍　14日／2回】
・カスミンボルドー、カッパーシン水和剤 ２４ Ｍ１【1,000倍　7日／4回】

軟腐病

留意事項

1 バイオキーパー水和剤は軟腐病菌の拮抗微生物を成分とする。
2 薬剤散布は、特に台風や大雨、強風の直後に行うと効果が高い。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 過度の早植えは避ける。
3 排水を良好にし、過湿を避ける。
4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
・バイオキーパー水和剤 －（生）
【野菜類（除かぼちゃ、ズッキーニ）　500～2,000倍　発病前～発病初期／－】
・コサイド3000 Ｍ１【野菜類　2,000倍　－／－】
5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・カスミンボルドー、カッパーシン水和剤 ２４ Ｍ１【1,000倍　7日／4回】
・スターナ水和剤 ３１【1,000倍　7日／3回】
・バリダシン液剤5 Ｕ１８【800倍　7日／5回】

根こぶ病

留意事項

1 土壌が乾燥している時に石灰窒素を施用した場合、分解促進のため、かん水を行う。
2 オラクル粉剤の成分アミスルブロムの総使用回数は8回以内（但し、苗床での土壌混和は2回以内、かん注は1回以内、本ぽでの土壌混和は2回以内、散布は4回以内）。但し、苗床及び本ぽでの土壌混和それぞれ2回のうち、それぞれ1回は、「おとり植

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

物（葉だいこん、エンバク等）」を栽培する場合であり、その栽培前に土壌混和する場合に使用できる。「おとり植物」の生育期間（1ヶ月程度）及びすき込み後、腐熟させる期間（1ヶ月程度）をおいて、2回目を施用する。

3 ランマンフロアブルの成分シアゾファミドの総使用回数は6回以内（但し、育苗期のかん注は1回以内、本ぽでの株元かん注は1回以内、散布は4回以内）。

防除方法

1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
2 排水を良好にし、過湿を避ける。
3 石灰質肥料を施用して土壌酸度をpH6.5～7.2に矯正する。
4 石灰窒素（石灰窒素50【100～200kg／10a　は種前または植付前／1回】など）を散布後土壌混和する。
5 過度の早植えは避ける。
6 発病した根は、ほ場から持ち出し、集めて処分する。
7 は種または、定植前に下記の薬剤を施用する。

・ネビリュウ ３６
【20～30kg／10a　全面土壌混和　は種または定植前／2回】
【20kg／10a　作条土壌混和　定植前／2回】

・オラクル粉剤 ２１
【20kg／10a　全面土壌混和　は種前（苗床）／2回】
【20kg／10a　作条土壌混和　定植前／2回】または
【30kg／10a　全面土壌混和　定植前／2回】

・ランマンフロアブル ２１
【500倍　2L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約2.5～7L）　かん注　定植前日～当日／1回】

8 本ぽで下記の薬剤を施用する。

・ランマンフロアブル ２１【2,000倍　株元かん注（250ml／株）　14日／1回】

9 苗床、本ぽを土壌消毒する。（ⅩⅢ土壌消毒2（4）　参照）

・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 －
【20～30kg／10a　は種または定植21日前／1回】

アブラムシ類

留意事項

1 苗床は寒冷しゃで被覆してアブラムシ類の飛来を防止する。
2 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（育苗期の株元散布、定植時の土壌混和及び灌注は合計1回以内、散布及び無人航空機散布は合計2回以内）。
3 プリロッソ粒剤、ベリマークSC、ベネビアOD（コナガの項参照）の成分シアントラ

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ニリプロールの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。

4 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 下記の薬剤を施用する。

・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ４Ａ
【2g／株　株元散布　育苗期／1回】または
【2g／株　植穴土壌混和　定植時／1回】

2 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

・ベリマークSC ２８
【400倍　0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　かん注　育苗期後半～定植当日／1回】

・アクタラ顆粒水溶剤 ４Ａ
【100倍　0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約3～4L）　かん注　育苗期後半／1回】

・プリロッソ粒剤 ２８
【50g／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する　育苗期後半～定植当日／1回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ４Ａ【2,000～4,000倍　7日／5回】
・コルト顆粒水和剤 ９Ｂ【3,000～4,000倍　前日／3回】
・トランスフォームフロアブル ４Ｃ【2,000倍　前日／3回】

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

1 だいこん等あぶらな科作物を加害する。
2 8～9月（育苗期～定植直後）の冬キャベツに被害が多い。
3 7～10月が高温少雨の年に多発する傾向がある。
4 食入前の防除に努める。
5 アクタラ粒剤5の成分チアメトキサムの総使用回数は4回以内（定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内）。
6 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は、3回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内）。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 育苗中の苗は、寒冷しゃ等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

2 定植には健全苗を使用し、本ぽへの幼虫の持ち込みを防ぐ。

3 下記の薬剤を施用する。

・アクタラ粒剤5 ４Ａ
【2g／株　株元散布　育苗期後半／1回】または
【2g／株　植穴処理　定植時／1回】

・モスピラン粒剤 ４Ａ【0.5g／株　株元散布　定植前日～定植当日／1回】

4 下記の薬剤を育苗時に、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

・ダントツ粒剤 ４Ａ
【50g／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　育苗期後半／1回】

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ４Ａ
【50～100倍　0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約3L）　かん注　定植前日～定植時／1回】

・プリンス粒剤 ２Ｂ
【20～30g／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約3～4L）　本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する　は種時～定植前／1回】

・プリロッソ粒剤 ２８
【50g／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する　育苗期後半～定植当日／1回】

・プレバソンフロアブル5 ２８
【100倍　0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　かん注　育苗期後半～定植当日／1回】

5 発生初期に、薬液が芯葉にかかるよう丁寧に散布する。

・アファーム乳剤 ６【1,000～2,000倍　前日／3回】

・ディアナSC ５【2,500～5,000倍　前日／2回】

・プレオフロアブル ＵＮ【1,000倍　7日／2回】

・アクセルフロアブル ２２Ｂ【1,000～2,000倍　前日／3回】

・グレーシア乳剤 ３０【2,000～3,000倍　7日／2回】

コナガ

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
3 あぶらな科野菜を加害するほかナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどのあぶらな科雑草にも寄生する。
4 セル成型苗では、定植前に粒剤を株元散布すると省力的に防除できる。
5 ダントツ粒剤の成分クロチアニジンの総使用回数は、3回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内）。
6 プリロッソ粒剤、ベネビアOD、ベリマークSCの成分シアントラニリプロールの総使用回数は4回以内（但し、定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内）。

防除方法

1 フェロモンディスペンサーを利用する。3ha以上の集団産地では、コンフューザーV、コナガコン－プラス、コナガコンを設置すると発生を抑制できる。
・コンフューザーV
【野菜類　100～200本／10a（41g／100本製剤）　対象作物の栽培全期間】
・コナガコン－プラス
【コナガ、オオタバコガ、ヨトウガが加害する農作物等　100～120本／10a（22g／100本製剤）　対象作物の栽培全期間】
・コナガコン
【コナガ、オオタバコガが加害する農作物等　露地：100～110m／10a（100mリール）または200本／10a（20cmチューブ）　加害作物栽培の全期間】
2 下記の薬剤を施用する。
・ダントツ粒剤 ４Ａ
【0.5g／株　株元処理　育苗期後半／1回】または
【2g／株　植穴処理土壌混和　定植時／1回】
3 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
・ベリマークSC ２８
【400倍　0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5L～4L）　かん注　育苗期後半～定植当日／1回】
・プリロッソ粒剤 ２８
【50g／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　本剤の所定量をセル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から均一に散布する　育苗期後半～定植当日／1回】
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ベネビアOD ２８【2,000～4,000倍　前日／3回】
・アファーム乳剤 6【1,000～2,000倍　前日／3回】
・アニキ乳剤 6【1,000～2,000倍　3日／3回】
・ディアナSC 5【2,500～5,000倍　前日／2回】
・アクセルフロアブル ２２Ｂ【1,000倍　前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・コテツフロアブル 劇 １３【2,000倍　前日／2回】
・グレーシア乳剤 ３０【2,000～3,000倍　7日／2回】
・ブロフレアSC ３０【2,000～4,000倍　前日／3回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

アオムシ

留意事項

1 幼虫による被害の著しいのは春と秋である。
2 アオムシに対する薬剤の効果は高いのでコナガ、ヨトウムシ類などと同時防除を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ベネビアOD ２８【2,000～4,000倍　前日／3回】
・アファーム乳剤 ６【1,000～2,000倍　前日／3回】
・ディアナSC ５【2,500～5,000倍　前日／2回】
・トレボン乳剤 ３Ａ【1,000～2,000倍　3日／3回】
・グレーシア乳剤 ３０【2,000～3,000倍　7日／2回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ハスモンヨトウ

留意事項

1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）にかん注処理する。
・ジュリボフロアブル ４Ａ ２８
【200倍　0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　育苗期後半～定植当日／1回】
・ベリマークSC ２８
【400倍　0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）　育苗期後半～定植当日／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アファーム乳剤 ６【1,000～2,000倍　前日／3回】
・ディアナSC ５【2,500～5,000倍　前日／2回】
・コテツフロアブル 劇 １３【2,000倍　前日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・プレオフロアブル ＵＮ【1,000倍　7日／2回】
・ブロフレアSC ３０【2,000～4,000倍　前日／3回】
・ベネビアOD ２８【2,000～4,000倍　前日／3回】
・グレーシア乳剤 ３０【2,000～3,000倍　7日／2回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫　3野菜類　参照）

ヨトウムシ

留意事項

1 若齢幼虫の防除に重点を置く。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・アファーム乳剤 6【1,000～2,000倍　前日／3回】
・ディアナSC 5【2,500～5,000倍　前日／2回】
・プレオフロアブル ＵＮ【1,000倍　7日／2回】
・アディオン乳剤 ３Ａ【2,000倍　3日／5回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫　3野菜類　参照）

シロイチモジヨトウ

留意事項

1 若齢幼虫の防除に重点を置く。
2 コナガ、ハスモンヨトウなどと同時防除を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・コテツフロアブル 劇 １３【2,000倍　前日／2回】
・スピノエース顆粒水和剤 5【2,500倍～5,000倍　3日／3回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫　3野菜類　参照）

ネキリムシ類

留意事項

1 ネキリムシ類とはカブラヤガ、タマナヤガ、シロモンヤガ、センモンヤガの幼虫の総称で、被害の大部分は、カブラヤガもしくはタマナヤガによる。

防除方法

1 被害を認めたら下記の薬剤を施用する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ダイアジノン粒剤5 １Ｂ
【4～6kg／10a　全面土壌混和または作条土壌混和　は種時または定植時／2回】
【6kg／10a　土壌表面散布　定植時／1回】
・フォース粒剤 劇 ３Ａ【4kg／10a　全面土壌混和　定植時／1回】
・デナポン5%ベイト １Ａ【3～6kg／10a　株元散布　14日／3回】
・アクセルベイト ２２Ｂ【3～6kg／10a　株元散布　7日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。